

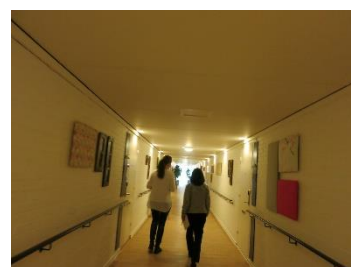
1 / 1 ライオンズパーク高齢者施設 (民設民営)

10:00~15:00

【概要】

介護住宅(72床) シニアセンター(120戸)それぞれ異なる基金によって2014年建設。介護住宅は日本でいうところの介護度がついた人が対象、シニアセンターは介護付き高齢者住宅であり自立して生活ができる人が対象。

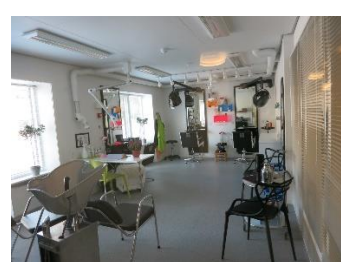
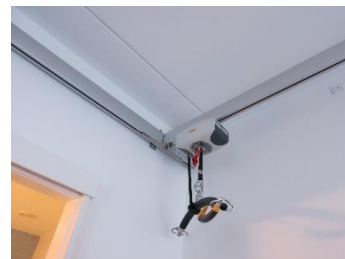
スタッフは合わせて105名位、5つの課があり、在宅部門、施設部門、厨房、セラピスト(OP・PTなど専門職)、用務員とそれぞれの役割が明確に分かれている。在宅・施設部門には看護師を筆頭にしたチーム構成となりSSA(介護福祉士?)の下にヘルパーという構成。資格に応じて可能な業務範囲が決められている。ちなみにインスリンは血糖値が安定している人であればSSAにて対応可能。



○シニアセンター入居の部屋(例)



○介護住宅の居室・共用スペース(例) 築4年ほど。どこを見ても整理整頓、美しい。





○厨房 食材はオーガニック中心。療養食、嚥下食などに対応。

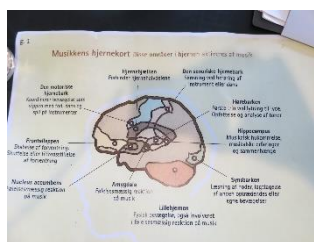


【PTの話】

- ・入居者の残存能力をいかに維持向上させ“いつまでも自分のアイデンティティを持ち続けること”を軸としている。(人の尊厳)
- ・リハビリには「精神」「身体」「社会性」の三本柱があり、本人にはどの柱が必要なのかを丁寧に見極めていく。
- ・ADLはヘルパーは日々の中で工夫し、トレーニングしている。例えば何度も座るという行為も、動くことでトレーニングになる。本人の意向を聞くことも大事だがこちらがやりすぎないように「見守る」ことも大事にしている。
- ・物のテクノロジーは積極的に取り入れている。天井リフトは当然で、スタッフの腰痛予防は徹底して守っている。(労働安全は費用というよりそれがないと従業者が職務を果たせない必須設備の一つという位置づけ)
- ・活動センターではなく「体験」センター。住まいなので活動ではなくあくまでも体験してもらうというスタンス。
- ・現在、音楽セラピーに力を入れており、音楽療法の専門家と共にケアをしている。

【音楽療法士】

- ・音楽というのはコミュニケーションツール。視覚ではなく「聴覚」への刺激を通じて脳を刺激し、ポジティブな感情を引き出せるよう働きかけている(回想法)
- ・その人にとって楽しい思い出を導かず質の良い音楽は、人の気分を心地よくする。認知症による不安なネガティブ感情を沈静化させる効果が高い。
- ・人と関わりたくない場合は個別に居室へ訪問。



- ・来たばかりの人には心を開いてもらうキッカケにもなっている。
- ・ターミナルケアとしても使用。
- ・庭園に4種類の楽器。癒しの音色を自分で出すことで体感+運動と組み合わせて発散。



- ・これらは国施策ではなくオリジナルのもの。ただし、申請をして補助金（予算）をつけてもらっているためコストは国もち。（それだけの企画力が必要）
- ・計画評価測定については、緩め。ヘルパーが課題・目標設定を行い評価をしているが期間に定めはなく、個人個人の状態によってまちまち。とにかくデータベースに記録し蓄積させている。

【総感】

まだ4年ということもあり施設内は非常に新しく綺麗。裕福層が入居する金額設定ということもあり、施設内はデザイン性の高いオシャレ感漂う内装や什器が使用されていた。居室に天井リフトはマスト。残存能力は活かすため「使うべき・使わないべき」の判断には経験値が必要になってくるため、最終的には運営＝ヒトの話になった。

聞く範囲では、国や自治体のバックが強く、根拠が明確であれば申請が通り補助金（コスト負担）をしてもらえ中、効果測定を綿密に行っているかと思いきや現時点ではまずはやってみるレベルのようで定性的な状態、つまりAさんの▲という症状が療法プログラムによって○という状態になってきたというレベルにとどめているのは意外であった。やはり定量化しづらいため定性的な要素で経過をおっていくことが主流というのは私たちの方法と同じであることが分かった。

ただし、確信したことがある。昨年、何をもって質が高いといえるのかを検証した中で導き出した要素は「精神」「身体」「尊厳（社会性）の保持」、そしてそれを支えるのはスタッフの「育成」であることという考え方が全くセンターと一緒にあったのである。これはベンチマークであり、豊かな経験値を文書化（将来的にはAI化）し教育していくことで継続的な質の高いサービスを提供するセンターを持続することに繋がるということである。

センターは素晴らしい設計がなされていたが、設備、庭園、スタッフを含め当施設にも同等のリソースがある。海光園だからこそ持っているヒトモノカネの資源を更に磨き上げ、そこで働く人の誇り、住む人の幸せにつながる仕事をし、1つの日本モデルにしていきたい。